

株主の皆様へ

第25期 株主通信

2009年4月1日から2010年3月31日まで



Your Global IT Partner.

あなたの、グローバルITパートナーを目指して。

**trans
cosmos**
people & technology

トランスコスモス株式会社

お客様の満足の大きさが我々の存在価値の大きさであり、ひとりひとりの成長がその大きさと未来を創る。

1 お客様企業へのコミットメント

- 常に世の中の技術動向を把握し、人と技術の融合により付加価値と品質の高いサービスを継続的に提供する。
- お客様に信頼される真のパートナーシップを構築する。

2 社員へのコミットメント

- 社員は無限の可能性を秘めた最大の資産であり、個人の成長に必要な教育支援を惜しまない。
- 機会は公平に与え、実績と能力によって適正な報酬と新たな成長の機会を提供する。

3 社会・株主へのコミットメント

- グループの成長により株主価値を高めるとともに、社会の進歩に貢献する。

2010年3月期の取り組みについて

■ 事業環境について

当連結会計年度における当社グループの事業環境は、企業のIT投資抑制の影響からITサービスの需要は縮小し、外部流出コスト抑止や社内人材の再配置など、収益を確保するための取り組みとしてインソーシング（内製化）に転換する動きが一部顕在化するなど厳しい状況が続きました。

このような事業環境のもと、当社グループ事業においては、主力サービスであるコールセンターサービス事業とデジタルマーケティングサービス事業は比較的堅調に推移したものの、自動車業界を中心とした製造業向けのCADエンジニア派遣など一部のビジネスプロセスアウトソーシングサービス事業と、ビジネスプロセスソリューションサービス事業は、事業環境の悪化の影響を受けて業績が低迷いたしました。

このため当社グループは企業のコスト削減、経営の効率化、競争力強化につながる新サービスの拡充と提供に取り組む一方、当社グループの再編や構造改革を行い、収益の回復に努めました。

■ 構造改革をはじめ、将来の成長に向けた取り組みについて

新サービス拡充の取り組みとしては、業務プロセスを改善しコストを最適化する間接費削減ソリューション、設計業務領域における業務効率化ソリューションなどの提供を開始いたしました。

またグループ再編の取り組みとしては、ダブルクリック株式会社、株式会社TCIPlusの吸収合併、ビカム株式会社の会社売却など関係会社の統合・整理を実施い

たしました。構造改革の取り組みとしては、人件費を中心とした経費削減の徹底、組織体制の再編成とスリム化を実施いたしました。

その他、将来の成長に向けた布石として、日本・中国・韓国を中心としたアジアでのグローバル戦略を推進いたしました。中国では、無錫（むしゃく）に4ヶ所目となるコールセンター運営拠点の開設や、中国最大手EC企業であるタオバオと戦略的パートナーシップ契約の締結を実施いたしました。また韓国では、韓国最大手通信会社の株式会社KTと戦略的な業務提携を実施いたしました。

2011年3月期の取り組みについて

需要予測の精度とサービスレベルを高めるため、組織体制を業種・業務に特化した営業組織と、全サービスを結集したサービス専門組織に再編し、需要発生時にスピーディーかつ的確な対応ができる体制を確立してまいります。景気悪化の影響で、業績が低迷したCADエンジニア派遣など一部のビジネスプロセスアウトソーシングサービス事業については、未稼働要員の適正配置を行ったことにより業務・コストを効率化し、ビジネスプロセスソリューションサービス事業においては、前期に拠点・ファシリティの統廃合を行ったことに加え、さらに業務・コストを効率化し、今期親和性の高いコールセンターサービス事業に統合することで業績回復を目指してまいります。

さらに今後の成長への布石として、中国・韓国を中心とした海外事業を強化、推進することで、お客様企業により高品質で価格競争力のあるアウトソーシングサービスをグローバルに提供できる体制を構築してまいります。これらの取り組みにより、より一層のサービス差別化・高付加価値化を実現し業界内での優位性を強化してまいります。

株主の皆様へ

2010年3月期の配当金につきましては、期初の計画では配当を見送る予定でしたが、予想を上回る利益を計上することができましたので、1株当たり10円とすることを株主総会でご承認いただきました。また、2011年3月期の1株当たりの年間配当金につきましても10円とする予定でございます。

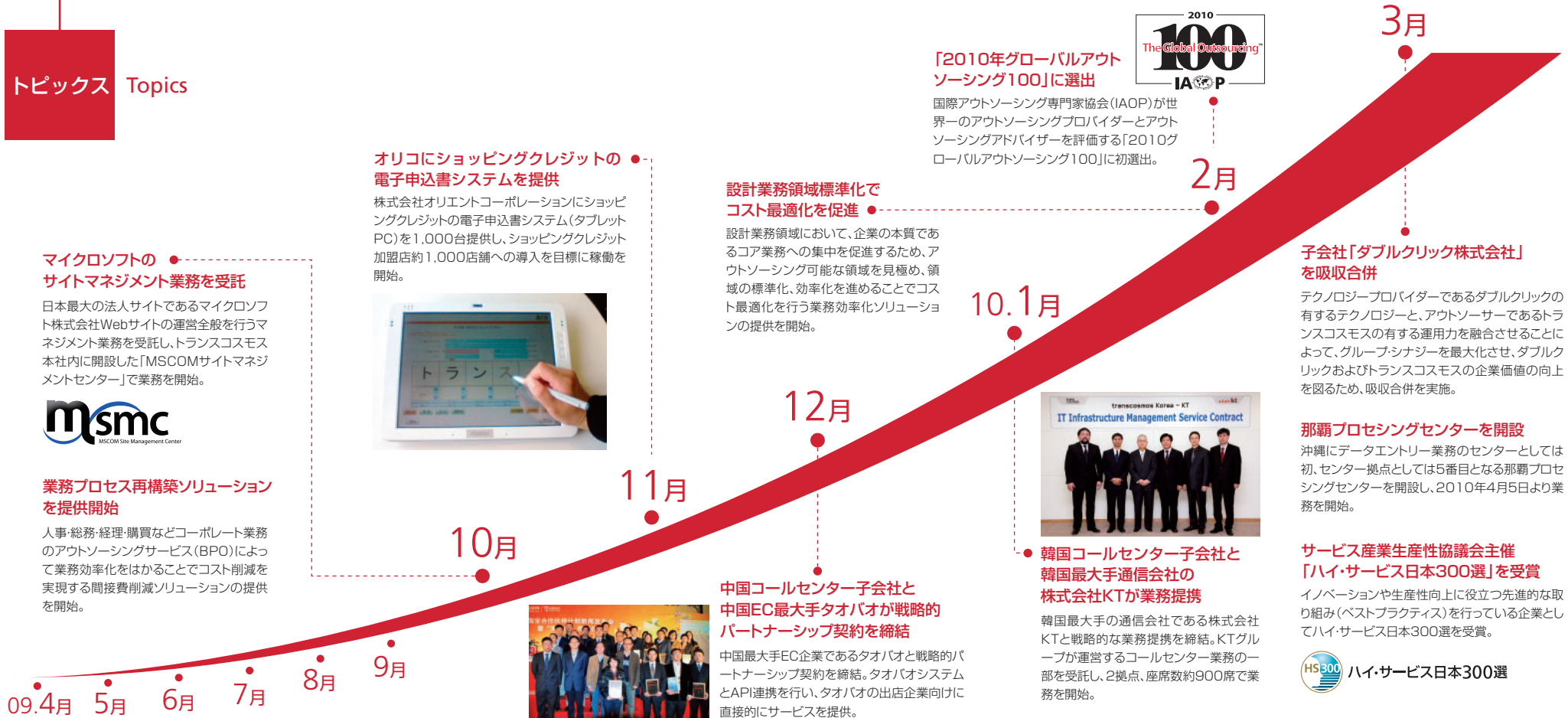
株主の皆様には、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

2010年6月
代表取締役社長兼COO

奥田昌孝



トピックス Topics



「2010年グローバルアウトソーシング100」に選出
 国際アウトソーシング専門家協会 (IAOP) が世界のアウトソーシングプロバイダーとアウトソーシングアドバイザーを評価する「2010グローバルアウトソーシング100」に初選出。

オリコにショッピングクレジットの電子申込書システムを提供
 株式会社オリエントコーポレーションにショッピングクレジットの電子申込書システム(タブレットPC)を1,000台提供し、ショッピングクレジット加盟店約1,000店舗への導入を目標に稼働を開始。



設計業務領域標準化でコスト最適化を促進
 設計業務領域において、企業の本質であるコア業務への集中を促進するため、アウトソーシング可能な領域を見極め、領域の標準化、効率化を進めることでコスト最適化を行う業務効率化ソリューションの提供を開始。

10.1月

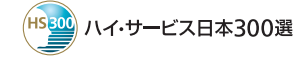


韓国コールセンター子会社と韓国最大手通信会社の株式会社KTが業務提携
 韓国最大手の通信会社である株式会社KTと戦略的な業務提携を締結。KTグループが運営するコールセンター業務の一部を受託し、2拠点、座席数約900席で業務を開始。

子会社「ダブルクリック株式会社」を吸収合併
 テクノロジープロバイダーであるダブルクリックの有するテクノロジーと、アウトソーサーであるトランスコスモスの有する運用力を融合させることによって、グループシナジーを最大化させ、ダブルクリックおよびトランスコスモスの企業価値の向上を図るため、吸収合併を実施。

那覇プロセシングセンターを開設
 沖縄にデータエントリー業務のセンターとしては初、センター拠点としては5番目となる那覇プロセシングセンターを開設し、2010年4月5日より業務を開始。

サービス産業生産性協議会主催「ハイ・サービス日本300選」を受賞
 イノベーションや生産性向上に役立つ先進的な取り組み(ベストプラクティス)を行っている企業としてハイ・サービス日本300選を受賞。



マイクロソフトのサイトマネジメント業務を受託

日本最大の法人サイトであるマイクロソフト株式会社Webサイトの運営全般を行うマネジメント業務を受託し、トランスコスモス本社内に開設した「MSCOMサイトマネジメントセンター」で業務を開始。



業務プロセス再構築ソリューションを提供開始

人事・総務・経理・購買などコーポレート業務のアウトソーシングサービス(BPO)によって業務効率化をはかることでコスト削減を実現する間接費削減ソリューションの提供を開始。

中国コールセンター子会社と中国EC最大手タオバオが戦略的パートナーシップ契約を締結



中国最大手EC企業であるタオバオと戦略的パートナーシップ契約を締結。タオバオシステムとAPI連携を行い、タオバオの出店企業向けに直接的にサービスを提供。

CSR 活動の取り組み

1. 環境活動への取り組み

当社は、環境マネジメントシステム「エコアクション21」を導入しています。地球環境、地域環境保全を事業活動全般に含まれるものと真摯に受け止め、全社員が自ら責任を持って持続的かつ計画的に取り組んでいき、情報処理アウトソーシングサービスを通じて循環型社会の実現と環境保全に貢献します。



2009年度 環境への負荷状況 (渋谷本社)

	09年度	08年度*	前年度対比
二酸化炭素排出量 (Kg-CO ₂ e)	1,708,128	1,939,781	88.1% (11.9%削減)
ゴミ総排出量 (kg)	167,026	201,237	83.0% (17.0%削減)

※算出方法変更により2008年度の実績値が「第25期中間株主通信」に記載した値と異なります。

2. 障がい者雇用促進と育成支援

トランスコスモスの主力事業であるデジタルマーケティング事業に関連した業務ノウハウやスキルを活かし、障がい者有する当社社員が、講師として出身校(ろう学校など)で出張授業などを行い、児童(小学生)を対象としたPC教育支援活動を推進しています。実社会の現場で活躍している卒業生が講師として授業を行う姿を通じて、子供たち自身の将来に対する意欲や希望に繋がればと考えています。

(障がい者有する社員が中心となって推進している社会貢献活動)



PC授業風景 (2010.02.03実施)

連結財務諸表(要旨)

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当連結会計年度末 2010年3月31日現在	前連結会計年度末 2009年3月31日現在
■資産の部		
流動資産	58,715	50,047
固定資産	32,921	38,044
有形固定資産	9,106	11,678
無形固定資産	4,674	7,207
投資その他の資産	19,140	19,158
資産合計	91,637	88,092
■負債の部		
流動負債	28,021	25,867
固定負債	22,190	22,663
負債合計	50,212	48,531
■純資産の部		
株主資本	39,912	36,482
資本金	29,065	29,065
資本剰余金	20,511	23,009
利益剰余金	6,257	4,155
自己株式	△ 15,921	△ 19,749
評価・換算差額等	△ 1,949	△ 2,228
少数株主持分	3,462	5,306
純資産合計	41,425	39,560
負債・純資産合計	91,637	88,092

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当連結会計年度 2009年4月1日から 2010年3月31日まで	前連結会計年度 2008年4月1日から 2009年3月31日まで
売上高	151,589	166,291
売上原価	123,238	137,225
売上総利益	28,350	29,066
販売費及び一般管理費	23,902	29,007
営業利益	4,448	59
営業外収益	1,167	804
営業外費用	1,076	2,057
経常利益	4,539	△ 1,193
特別利益	5,282	3,341
特別損失	8,043	5,097
税金等調整前当期純利益	1,778	△ 2,950
法人税、住民税及び事業税	410	535
法人税等調整額	△ 71	△ 5,028
法人税等合計	338	△ 4,493
少数株主損失	695	659
当期純利益	2,135	2,201

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当連結会計年度 2009年4月1日から 2010年3月31日まで	前連結会計年度 2008年4月1日から 2009年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	8,225	4,564
投資活動による キャッシュ・フロー	4,052	△ 7,065
財務活動による キャッシュ・フロー	1,058	3,087
現金及び現金同等物の期末残高	27,622	14,211

●ポイント1

連結売上高は、長引く景気低迷の影響ならびに関係会社の整理・統合を進めたことにより前期比で8.8%の減収となりました。主力のコールセンターサービス事業、デジタルマーケティングサービス事業は比較的堅調に推移したものの、特に自動車業界を中心とした製造業向けのCADエンジニア派遣など一部のビジネスプロセスアウトソーシングサービス事業では事業環境の悪化の影響を受けて業績が低迷しました。

●ポイント2

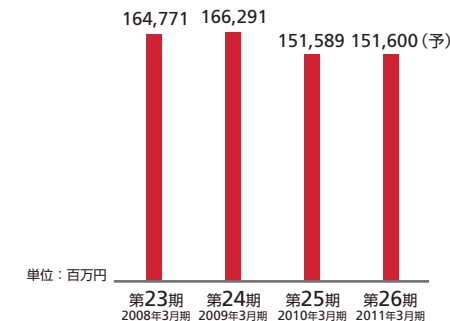
連結営業利益は、前期に大きな営業赤字を計上したCVC事業からの撤退効果に加えて、主力のコールセンターサービス事業、デジタルマーケティングサービス事業の収益性改善、人件費をはじめとする経費抑制、赤字事業の建て直し、子会社の整理・統合などにより、前期比で大幅な増益となりました。

●ポイント3

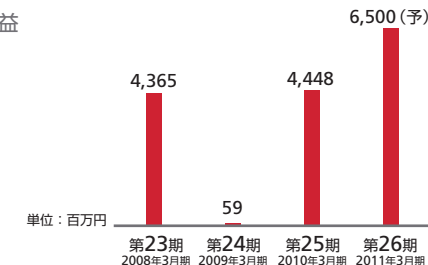
連結当期純利益は、前期にCVC事業撤退に伴う税効果として法人税等調整額約50億円を計上したこともあり、前期比で3.0%の減益となりました。一方、重点施策のひとつとして前期より推進してきた構造改革に伴う減損処理等の影響があったものの、吸収合併したダブルクリック株式会社のDART事業譲渡などに伴う利益を計上した結果、期初の予想を大幅に上回る結果となりました。

※ CVC: コーポレートベンチャーキャピタルの略称。投資事業のこと。

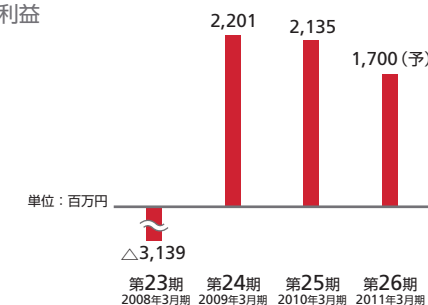
売上高



営業利益

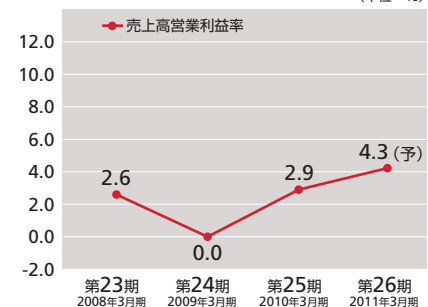


当期純利益

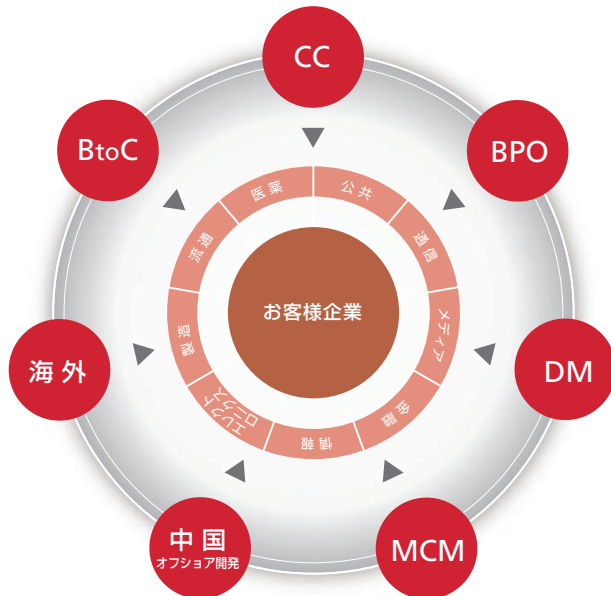


売上高営業利益率

(単位: %)



Your Global IT Par



◆事業紹介

BPO Business Process Outsourcing Services ビジネスプロセスアウトソーシングサービス

ビジネスプロセスアウトソーシングサービスは、お客様企業のIT部門、業務部門、設計部門の業務を支援するサービスです。①IT基盤の導入・開発・運用・保守などIT業務を支援する「ITアウトソーシング」(ITO)、②製品の受発注や総務・人事・経理といったコーポレート業務・バックオフィス業務を支援する「ビジネスプロセスアウトソーシング」(BPO)、③機械・建築設計やCADシステムの開発・運用・保守など設計業務を支援する「エンジニアリングソリューション」(ES)の3つのサービスを柱に、コスト削減と業務効率を高めるアウトソーシングサービスを提供しています。(P6図参照)

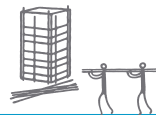
業務の効率化によってムダなコストを削減する 注目のBPOビジネス

昨今の長引く景気低迷の状況下において、企業は収益環境を改善するための経営改革が求められています。その中で、日々の業務プロセスを見直し、業務を効率化することでムダなコストを削減するBPOビジネスに注目が集まっています。

BPOとは、企業活動における業務プロセスの一部を一括して外部の専門業者に外部委託(アウトソーシング)することです。企業はBPOを活用することで、コスト削減、固定費の変動費化のみならず、経営資源のコア業務への集中により、さらに優れた業務品質を実現し、顧客への提供価値を高めることが可能となります。

経済産業省が2008年6月に公表した「BPO研究会報告書」

CC CallCenter Services コールセンターサービス



コールセンターでは、企業が提供する商品・サービスについて、お客様からのお問い合わせや苦情などに対して専門的に応対を行います。一般的にカスタマーセンター、サポートセンターなどと呼ばれるものです。従来、電話での応対が中心でしたが、通信・メディア技術の進歩により、電話・FAX・メール・Web・モバイルなどお客様とのコミュニケーション手段のマルチチャネル化とともに、コールセンターの仕組みも複雑かつ高度化しています。当社は、このコールセンター業務を企業から委託を受けて代行するアウトソーシングサービスを提供しています。また申込書や伝票などの帳票の回収・入力・発行といったフルフィルメント業務のサービスも提供しています。

- インバウンドサービス ●アウトバウンドサービス
- コールセンターシステムの構築・運用 ●フルフィルメントサービス

※ビジネスプロセスソリューションサービス事業は、2010年4月よりコールセンターサービス事業に統合しました。

DM Digital Marketing Services デジタルマーケティングサービス



インターネットをベースとした企業のマーケティング活動を支援するサービスを提供しています。検索連動型広告をはじめ、バナー広告、アフィリエイトなどWebプロモーションのプランニングから実行・運用・効果分析までを行う「インターネット広告」、企業のWebサイトのプランニングから構築・運用までを行う「Webインテグレーション」の2つのサービスを中心に提供しています。

- インターネット広告 ●Webサイト構築・運用
- モバイル ●クロスメディア

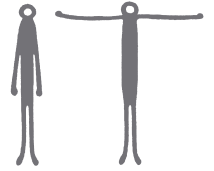
MCM The Marketing Chain Management Solution Services マーケティングチェーンマネジメントソリューションサービス



本事業は、新事業として2010年4月よりスタートしました。2010年3月に吸収合併した子会社ダブルクリックが有するテクノロジーソリューションビジネスを引き継ぎ、当社がアウトソーシング事業において培ってきた「運用力」と融合させ、総合ソリューション事業として企業のマーケティング活動全体の効率化・最適化・自動化を支援していきます。

- マーケティングリサーチサービス
- MCMコミュニケーション戦略開発サービス
- MCMプロセスエンジニアリングサービス
- MCMテクノロジーソリューション
- MCMオペレーションサービス ●MCM品質評価・改善サービス

グローバル＝コストパフォーマンス×きめ細かさ。
これがトランスコスモスのITパートナー方程式です。



によれば、日本国内におけるBPO市場は、2011年には1兆円を超える見込みです。当社は、創業からの44年間で培ってきたアウトソーサーとしての実績・ノウハウを活かし、今後の成長戦略の柱の1つとしてBPOビジネスに注力していきます。

■BPOサービスの事例紹介

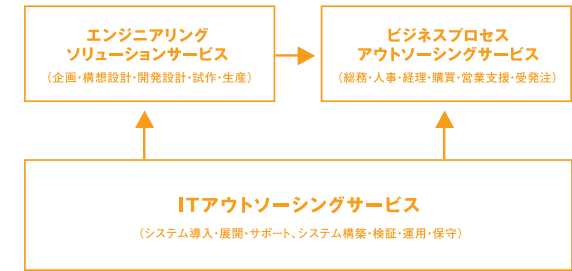
冷凍食品最大手・株式会社ニチレイフーズ様の受注センター運用コスト15%削減を実現

当社は、冷凍食品最大手の株式会社ニチレイフーズ様の受注センター再構築をお手伝いさせていただきました。ニチレイフーズ様は、自社運用していた受注センターの運用コストと業務品質に課題を抱えていました。この課題を解決するため、当社は、熊本県にある当社のBPOセンター拠点(BPO熊

本テクニカルセンター)内にニチレイフーズ様の新たな受注センターを開設しました。地方センターの活用によりファシリティ費を削減するとともに業務ボリュームに応じた最適な運用体制を提供することで人件費を削減しました。これまでに自社運用時と比べて15%の運用コストを削減しており、最終的には約20%以上のコストを削減できる見込みです。また品質面では、構築フェーズでの業務フロー改善・標準化に加え、充実した教育体制により受注センターの業務品質を均一化し、お客様内で業務を行う場合と同等のサービスレベルを実現しています。

- システム構築・開発
- アプリケーション保守
- 検証
- サポートデスク
- ITライフサイクル
- ビジネスサポート
- CAD業務支援
- 設計支援
- 試作

■BPO事業の概要



BPO

中国

Offshore System Developing

中国オフショア開発サービス

オフショア開発とは、国内のソフトウェアや各種システムの開発・運用を海外の事業者へ委託することです。当社は、中国を拠点にオフショア開発サービスを提供しています。このサービスの最大のメリットは、大幅な原価削減が期待できる点です。中国の拠点を通じて、システム開発、施設・人員・インフラなど様々な面でかかるコストの大幅削減を実現しつつ、日本国内と同等の品質と技術を提供しています。

- オフショア開発サービス
- オフショア開発センター(ODC)サービス

海外

Overseas Business

海外事業

日本国内で展開している多彩なサービスを、海外でも国内同等の品質と技術で提供しています。中国、韓国などアジアを中心に、日本法人の海外進出を支援するオンショア(現地法人向け)、コスト競争力の強化に繋がるオフショア(日本国内法人向け)で、コールセンターサービス、ビジネスプロセスアウトソーシングサービス、ビジネスプロセスソリューションサービス、デジタルマーケティングサービスを提供しています。

- コールセンター
- デジタルマーケティング
- オフショアリング

BtoC

Business to Consumer

BtoC事業

一般消費者を対象としたインターネットメディアの企画・開発・運営を行っています。インターネット上の3Dバーチャルコミュニティ(メタバース)として、リアルな東京を再現する「meet-me」は、次世代メディアとして注目度の高いメディアです。その他、月間1億PVを誇るニュースサイト「IZA!」、動画を中心としたコミュニケーションサイト「Watch me!」なども展開しています。

- 一般消費者向けインターネットメディアの企画・開発・運営

● 会社概要 (2010年3月31日現在)

会社名	トランスコスモス株式会社
(商号)	トランス・コスモス株式会社(transcosmos inc.)
設立年月日	1985年6月18日(登記上 1978年11月30日)
資本金	290億6,596万円
従業員数	本体:9,035名 グループ:15,634名
主要取引銀行	三井住友銀行、みずほコーポレート銀行、三菱東京UFJ銀行

● 役員構成 (2010年6月24日現在)

代表取締役グループCEOファウンダー	奥田 耕己		
代表取締役会長兼CEO	船津 康次		
代表取締役社長兼COO	奥田 昌孝		
専務取締役	石見 浩一		
上席常務取締役	向井 宏之	森山 雅勝	永倉 辰一
社外取締役	夏野 剛	瀧浪 壽太郎	吉田 望
常勤監査役	石岡 英明		
監査役	高尾 吉郎	渡邊 和志	中村 敏明
常務執行役員	下總 邦雄	牟田 正明	貝塚 洋
	中山 国慶	河野 洋一	
執行役員	高野 雅年	野々村 正仁	早見 泰弘
	山喜 和彦	多田 真之	本田 仁志
	梅村 和広	清水 一洋	

● 株式の状況 (2010年3月31日現在)

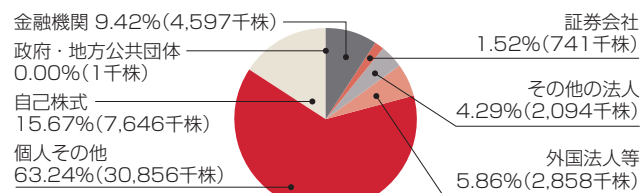
発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式の総数	48,794,046株
株主数	27,097名

● 大株主の状況 (2010年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
奥田 耕己	7,498	18.22
奥田 昌孝	5,910	14.36
平井 美穂子	2,185	5.31
財団法人奥田育英会	1,753	4.26
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	866	2.11
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	634	1.54
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	569	1.38
トランス・コスモス社員持株会	475	1.16
MELLON BANK ABN AMRO GLOBAL CUSTODY N.V.	407	0.99
奥田 省三	283	0.69

- (注) 1. 上記の他、当社が自己株式7,646千株を保有しております。
 2. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 3. 出資比率は、小数第三位を四捨五入により表示しております。
 4. 出資比率は、自己株式(7,646千株)を控除して算出しております。

● 所有者別株式分布状況 (2010年3月31日現在)



- (注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 持株比率は、小数第三位を四捨五入により表示しております。

● 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 (中間配当金 毎年9月30日) その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎0120-176-417
(インターネット)(ホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	当社のホームページに掲載する。 http://www.trans-cosmos.co.jp ※ただし、電子公告による公告をすることができない事故、その他やむを得ない事由が生じた場合には、日本経済新聞に掲載いたします。

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記載された株式に関する各種お手続きにつきましては、住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(住友信託銀行)にお問い合わせください。なお、住友信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、住友信託銀行本支店でお支払いいたします。